矢崎財団

# 研究助成金15人と学術賞3人決定

矢崎科学技術振興記念財団（佐藤慎一理事長）は2023年度研究助成金の受領者15人、矢崎学術賞の受賞者３人を決定した。２月29日には都内で贈呈式を開催した（写真）。同財団は1983年以来、科学技術の発展を目的に研究助成事業を行っており、今年度も独創的かつその成果が科学技術の発展に大きく貢献すると考えられる研究を対象として選定した。

助成対象は材料・デバイス、環境・バイオサイエンス、エネルギー・情報通信情報の各分野で、一般研究助成（200万円）のほか原則35歳以下の研究者が対象となる奨励研究助成（100万円）、財団が特定したテーマにふさわしい研究が対象となる特定研究助成（1000万円）がある。一般助成は、応募60件のうち「植物の光周性原理の解明とデンプン質バイオマス生産への応用」（遠藤求奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科教授）をはじめ５件、奨励研究助成は応募36件のうち「アルゴリズムとアーキテクチャの協調最適化による学習型画像圧縮システム」（孫鶴鳴横浜国立大学大学院工学研究院准教授）をはじめ10件が選ばれた。特定研究助成は、応募15件で該当なしだった。

国際交流援助は応募12件で10人が選出、学術賞は応募が７件あり、長汐晃輔東京大学工学系研究科教授が功績賞、鈴木大地産業技術総合研究所センシングシステム研究センター主任研究員と星本陽一大阪大学大学院工学研究科准教授が若手研究者を対象とした奨励賞に選ばれた。